

太田商工会議所管内景況調査報告書

(第115回)

2025年7～9月期 実績

2025年10～12月期 見通し

太田商工会議所

〒373-8521 群馬県太田市浜町3-6

TEL 0276(45)2121

FAX 0276(45)1088

URL <http://www.otacci.or.jp>

E-Mail info@staff.otacci.or.jp

太田商工会議所 景況調査 目次

調査要項	1
調査目的や対象企業（業種）、回答率など	
(1) 設問に対する業種別回答	2
9つの質問に対する業種別による回答状況	
(2) 業種別D I 値について	5
6つの業種ごとのD I 値及び回答企業からのコメント	
(3) 全体D I 値について	9
全ての業種を併せたD I 値と1年間の推移	
(4) 【参考】現在直面している経営課題の指摘率	10
8つの選択肢に対する回答状況（3つまで選択可）	
(5) 比較資料編	11
同様の景況調査を行っている機関とのデータ比較 (中小企業基盤整備機構、日本商工会議所L O B O調査、日銀短観)	

【調査要項】

1. 目的

管内経済動向を把握し、併せて経営者への情報提供とするとともに、今後の経営指導の資料とする。

2. 調査時点及び対象期間

- ① 調査時点 2025年9月
- ② 調査対象期間 今期(2025年7~9月期)に対する前期(2025年4~6月期)及び前年同期(2024年7~9月期)との比較実績、並びに今後3ヶ月間の業況見通しについて調査。

3. 調査対象

当所会員事業所の業種を5つ(製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業)に分類し、製造業に関しては、更に「輸送機器」と「その他製造業」に分けた。

調査対象先の企業数については、太田商工会議所会員事業所の業種割合にて按分し、下記の通り調査を実施した。

4. 回答状況

	依頼数		回答数	回答率
全体	270	→	213	78.9 (%)
輸送機器	40	→	32	80.0 (%)
その他製造	40	→	33	82.5 (%)
建設業	50	→	41	82.0 (%)
卸売業	30	→	26	86.7 (%)
小売業	40	→	29	72.5 (%)
サービス業	70	→	52	74.3 (%)

5. DI値について

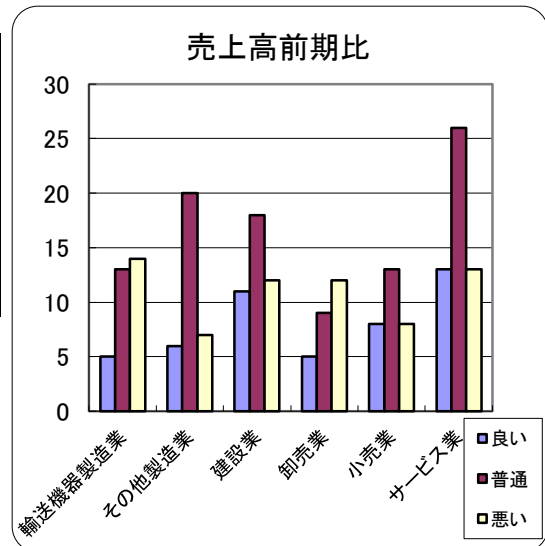
DIとは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、良い(増加)と答えた企業の割合から、悪い(減少)と答えた企業の割合を引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

(例:ある設問において、「良い」と答えた企業…15% 「悪い」と答えた企業…25%の場合、DI値は▲10.0となる。)

(1)設問に対する業種別回答

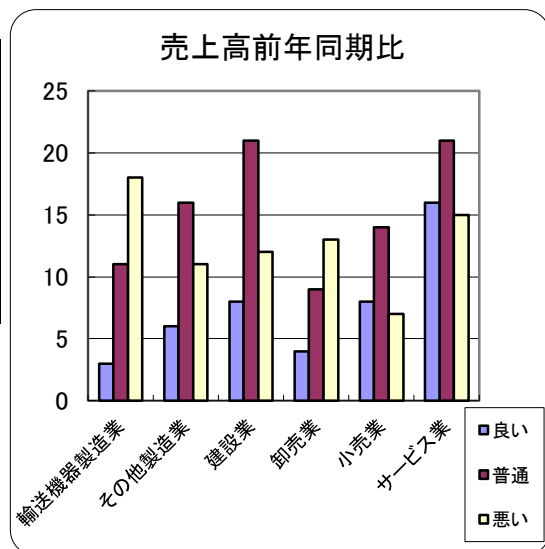
売上高前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	5	13	14	32	▲ 28.1
その他製造業	6	20	7	33	▲ 3.0
建設業	11	18	12	41	▲ 2.4
卸売業	5	9	12	26	▲ 26.9
小売業	8	13	8	29	0.0
サービス業	13	26	13	52	0.0
合計	48	99	66	213	▲ 8.5



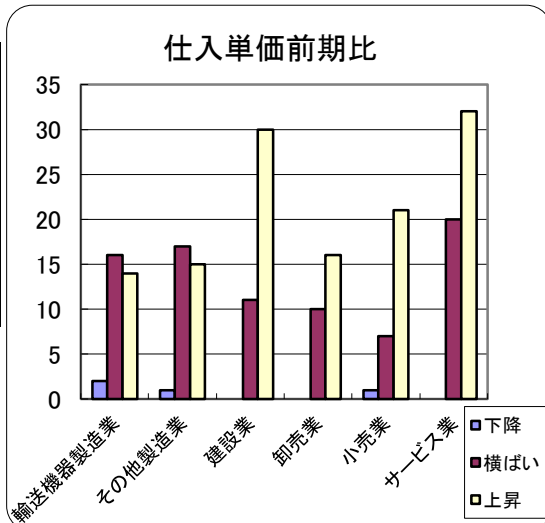
売上高前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	3	11	18	32	▲ 46.9
その他製造業	6	16	11	33	▲ 15.2
建設業	8	21	12	41	▲ 9.8
卸売業	4	9	13	26	▲ 34.6
小売業	8	14	7	29	3.5
サービス業	16	21	15	52	1.9
合計	45	92	76	213	▲ 14.6



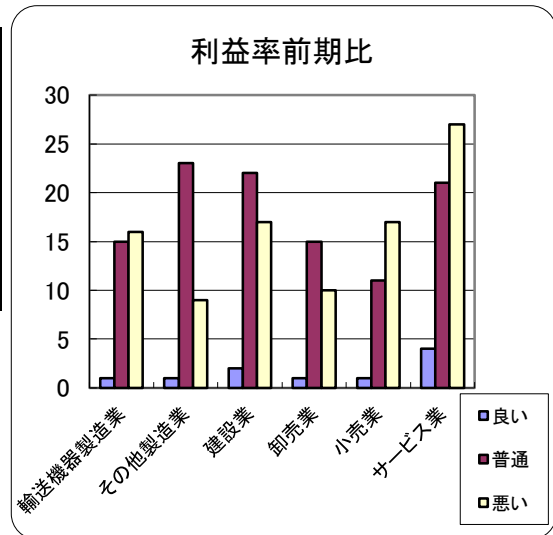
仕入単価前期比

	下降	横ばい	上昇	合計	DI値
輸送機器製造業	2	16	14	32	▲ 37.5
その他製造業	1	17	15	33	▲ 42.4
建設業	0	11	30	41	▲ 73.2
卸売業	0	10	16	26	▲ 61.5
小売業	1	7	21	29	▲ 69.0
サービス業	0	20	32	52	▲ 61.5
合計	4	81	128	213	▲ 58.2



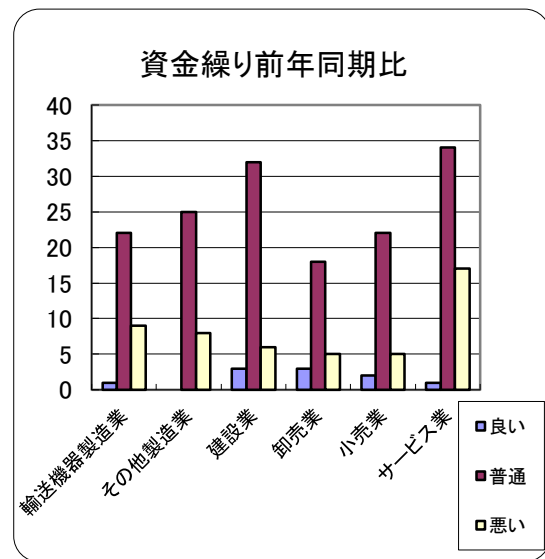
利益率前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	1	15	16	32	▲ 46.9
その他製造業	1	23	9	33	▲ 24.2
建設業	2	22	17	41	▲ 36.6
卸売業	1	15	10	26	▲ 34.6
小売業	1	11	17	29	▲ 55.2
サービス業	4	21	27	52	▲ 44.2
合計	10	107	96	213	▲ 40.4



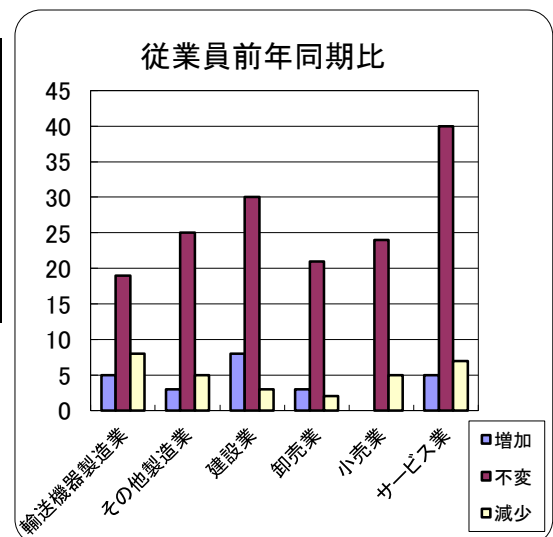
資金繰り前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	1	22	9	32	▲ 25.0
その他製造業	0	25	8	33	▲ 24.2
建設業	3	32	6	41	▲ 7.3
卸売業	3	18	5	26	▲ 7.7
小売業	2	22	5	29	▲ 10.3
サービス業	1	34	17	52	▲ 30.8
合計	10	153	50	213	▲ 18.8



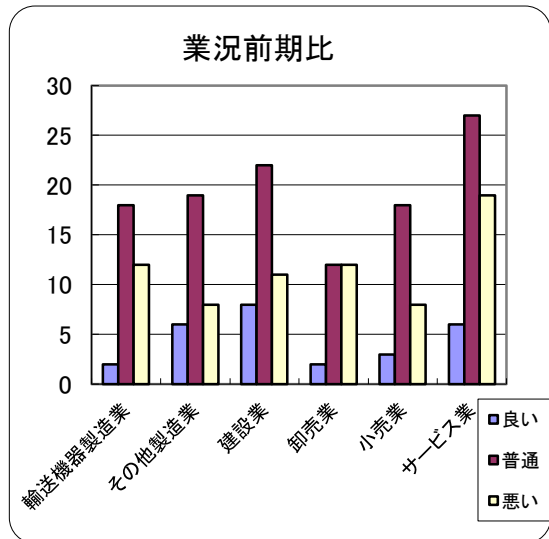
従業員前年同期比

	増加	不変	減少	合計	DI値
輸送機器製造業	5	19	8	32	▲ 9.4
その他製造業	3	25	5	33	▲ 6.1
建設業	8	30	3	41	12.2
卸売業	3	21	2	26	3.9
小売業	0	24	5	29	▲ 17.2
サービス業	5	40	7	52	▲ 3.8
合計	24	159	30	213	▲ 2.8



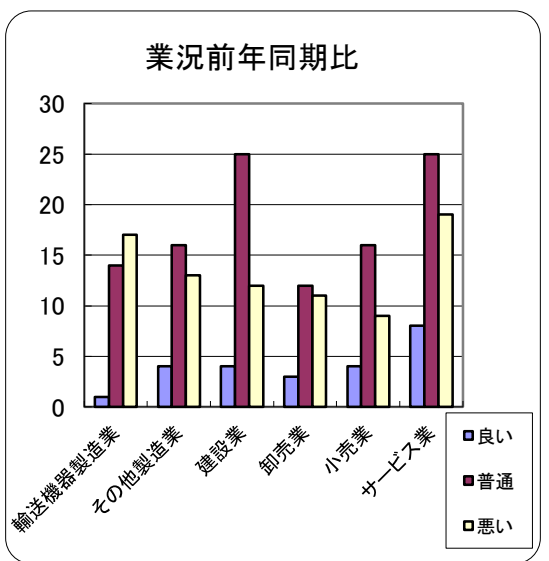
業況前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	2	18	12	32	▲ 31.3
その他製造業	6	19	8	33	▲ 6.1
建設業	8	22	11	41	▲ 7.3
卸売業	2	12	12	26	▲ 38.5
小売業	3	18	8	29	▲ 17.3
サービス業	6	27	19	52	▲ 25.0
合計	27	116	70	213	▲ 20.2



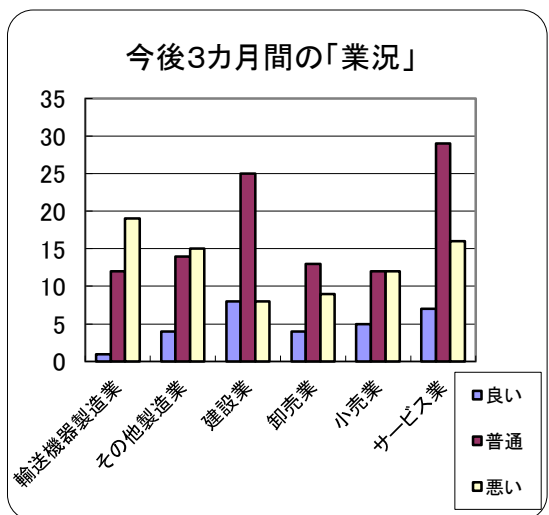
業況前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	1	14	17	32	▲ 50.0
その他製造業	4	16	13	33	▲ 27.3
建設業	4	25	12	41	▲ 19.5
卸売業	3	12	11	26	▲ 30.8
小売業	4	16	9	29	▲ 17.2
サービス業	8	25	19	52	▲ 21.2
合計	24	108	81	213	▲ 26.8



今後3ヶ月間の「業況」見通し

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	1	12	19	32	▲ 56.3
その他製造業	4	14	15	33	▲ 33.3
建設業	8	25	8	41	0.0
卸売業	4	13	9	26	▲ 19.2
小売業	5	12	12	29	▲ 24.1
サービス業	7	29	16	52	▲ 17.3
合計	29	105	79	213	▲ 23.5



(2)業種別DI値について

輸送機器	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 9.1	▲ 28.1	▲ 19.0
売上高前年同期比	▲ 12.1	▲ 46.9	▲ 34.8
仕入単価前期比	▲ 54.6	▲ 37.5	17.1
利益率前期比	▲ 21.2	▲ 46.9	▲ 25.7
資金繰り前年同期比	▲ 21.2	▲ 25.0	▲ 3.8
従業員前年同期比	0.0	▲ 9.4	▲ 9.4
業況前期比	▲ 12.1	▲ 31.3	▲ 19.2
業況前年同期比	▲ 9.1	▲ 50.0	▲ 40.9
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 51.5	▲ 56.3	▲ 4.8

[企業コメントより]

- ・受注が少ないので価格を上げることができない。全体的に生産能力も落ちているので、これから納期が厳しくなると思う【金属加工】
- ・トランプ関税の内容が明確になり、輸出向けの仕事が動き出したが、人件費含め諸経費の価格転嫁の申し出を4年前から行っているものの未だ認められず、経営をかなり圧迫している。今後の見通しは良くないと判断している【パイプ加工】
- ・(変動要因が多く)落ち着いて物事ができない【自動車内装部品】

その他製造業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 8.8	▲ 3.0	5.8
売上高前年同期比	▲ 29.4	▲ 15.2	14.2
仕入単価前期比	▲ 41.2	▲ 42.4	▲ 1.2
利益率前期比	▲ 11.8	▲ 24.2	▲ 12.4
資金繰り前年同期比	▲ 29.4	▲ 24.2	5.2
従業員前年同期比	▲ 2.9	▲ 6.1	▲ 3.2
業況前期比	▲ 23.5	▲ 6.1	17.4
業況前年同期比	▲ 41.2	▲ 27.3	13.9
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 47.1	▲ 33.3	13.8

[企業コメントより]

- ・外注先が少なくなり、中でする仕事が多くなった。そのため経費増となり、また最低賃金の引き上げにより、人件費の上昇となった。取引先に価格UPを要求せざるを得ない【ニット製品製造】
- ・技術者の高齢化&働き方改革による生産性の低下で、売上低調なところに最低賃金の上昇、物価高騰により支出が増え、事業継続に黄色信号が点滅してしまうのではないかと不安である【ニット製品製造】
- ・米国向輸出が減り、原材料高や電力費・燃料、人件費の高騰に加え、人材も募集しても面接もできないなど、自社ではどうにもならない外部環境の激変が続いている。今後は開き直り、販売価格の大幅上昇をお願いするしか無い状況です。賃金上昇以上の価格転嫁をせざるを得ません【食品製造】
- ・材料費や光熱費の上昇で価格を上げざるを得ないが、価格を上げると見積もりが通らない。お客様も安いところを探して相見積もりをしていて、急ぎ案件でも決まらない事が増えた。どの会社も資金繰りに苦しんでいる。今はどんなに急ぎ案件でも断らず、来るだけありがたいと思って引き受けている【樹脂加工】
- ・トランプ関税が影響していると思われる【物流資材製造】

建設業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	7.1	▲ 2.4	▲ 9.5
売上高前年同期比	2.4	▲ 9.8	▲ 12.2
仕入単価前期比	▲ 71.4	▲ 73.2	▲ 1.8
利益率前期比	▲ 9.5	▲ 36.6	▲ 27.1
資金繰り前年同期比	▲ 4.8	▲ 7.3	▲ 2.5
従業員前年同期比	9.5	12.2	2.7
業況前期比	▲ 19.1	▲ 7.3	11.8
業況前年同期比	▲ 14.3	▲ 19.5	▲ 5.2
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 14.3	0.0	14.3

[企業コメントより]

- ・人員不足の為、受注出来ない事案が出てます【土木工事】
- ・技術者の成長が遅い。技術者として雇った人が辞めてしまう【総合建築業】
- ・この5年間、3%以上の賃上げを行っているが、新入社員はもちろん、中途採用も困難になっていて、外国人(正社員)にお願いするしか他ない!【土木工事】
- ・先行きは依然不透明だが、人手不足や作業員の高齢化など、人的課題が一層顕著になっている。加えて材料費高騰や税負担感増も経営を圧迫しているが、引き続き効率化や体制整備に努めながら対応を模索している【建設付帯工事】
- ・職人の高齢化が進み、特に和室が施工できる大工の確保が難しい【建築業】
- ・猛暑によるこの時期の現場減少(が響いた)【建設付帯設備】
- ・IT/DX化活用、設備投資など(を計画する)【建設付帯工事】
- ・大手建設会社からの下請が多いため、大手の業績に左右されやすい【電気工事】

卸売業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 15.4	▲ 26.9	▲ 11.5
売上高前年同期比	▲ 19.2	▲ 34.6	▲ 15.4
仕入単価前期比	▲ 57.7	▲ 61.5	▲ 3.8
利益率前期比	▲ 19.2	▲ 34.6	▲ 15.4
資金繰り前年同期比	▲ 11.5	▲ 7.7	3.8
従業員前年同期比	7.7	3.9	▲ 3.8
業況前期比	▲ 19.2	▲ 38.5	▲ 19.3
業況前年同期比	▲ 34.6	▲ 30.8	3.8
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 26.9	▲ 19.2	7.7

[企業コメントより]

- ・小規模企業の経営者高齢化による廃業が増え、受注集中時に製品加工の生産能力不足が発生している。また原材料費高による資金繰りも厳しい状況となっている【物流資材卸】
- ・イメージ的に福祉業界は低賃金と見なされ、求人難になっているのが現状であります【医療器卸】
- ・後継者問題(が深刻である)【事務機器卸】
- ・間接的ではあるが、中国経済悪化の影響が大きい。現在、新規ビジネスを立ち上げており、今後に期待している【樹脂資材卸】
- ・基軸になる業種の動向が不安定なため、当社としての受注計画が立たない。経費は賃金含め上昇している。非常に厳しい【機械工具卸】
- ・自動車業界の開発関係が来年であるため、現在は非常に厳しい【金型部品卸】
- ・求人募集しても応募がないのが悩み【木材卸】
- ・運営資金難で大変です。支援宜しくお願いします【家具・工芸品卸】

小売業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 23.3	0.0	23.3
売上高前年同期比	▲ 26.7	3.5	30.2
仕入単価前期比	▲ 56.7	▲ 69.0	▲ 12.3
利益率前期比	▲ 26.7	▲ 55.2	▲ 28.5
資金繰り前年同期比	▲ 6.7	▲ 10.3	▲ 3.6
従業員前年同期比	▲ 3.3	▲ 17.2	▲ 13.9
業況前期比	▲ 33.3	▲ 17.3	16.0
業況前年同期比	▲ 43.3	▲ 17.2	26.1
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 53.3	▲ 24.1	29.2

[企業コメントより]

- ・業界としての対処は、業界組合、取引先、問屋・メーカー共に大型組織の小売以外の零細企業に対しては何もなし。メーカー、問屋側の合理化の為にIT導入(費用我々小売持ち)の為に経費が増加している【化粧品小物販売】
- ・カード決済等の手数料のこと(ペイペイ約2%、クレジットカード3.4~3.5%)。当店ではたばこや市のゴミ袋等取り扱っていますが利益10%です。クレカ3.4~3.5%の手数料はつらいです。国の政策で増々キャッシュレス化が進むと、経営に影響が出てくるかも【飲料販売】
- ・問屋で仕入するより、広告(に出る)の商品の方がはるかに安い。チェーン店に小口で買いに行っているのが現状【飲料品販売】
- ・パート募集の時間給を1,200円にした。それに合わせて現在のパートさんの時給を上げました【食品製造販売】
- ・材料・部品全てにおいて仕入れ価格が上昇。ネット販売で購入する方が多い(安く購入できるため)【時計店】
- ・国内産うるち米の価格上昇で、年明け以降の需給緩和も想定、「必要以上に買い過ぎない」方針を決めた事業者もある【米穀販売】
- ・求人費用をかけている割に応募が少なく欲しい人材が集まらない【自動車修理販売】
- ・こつこつ地道に続けるのみです【化粧品販売】
- ・毎月のように届くメーカーからの価格表!! 大量仕入れする余裕はなく、価格が落ち着くまでは我慢するしかない。【嗜好品販売】

サービス業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	5.3	0.0	▲ 5.3
売上高前年同期比	5.3	1.9	▲ 3.4
仕入単価前期比	▲ 61.4	▲ 61.5	▲ 0.1
利益率前期比	▲ 31.6	▲ 44.2	▲ 12.6
資金繰り前年同期比	▲ 17.5	▲ 30.8	▲ 13.3
従業員前年同期比	▲ 5.3	▲ 3.8	1.5
業況前期比	▲ 10.5	▲ 25.0	▲ 14.5
業況前年同期比	▲ 10.5	▲ 21.2	▲ 10.7
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 14.0	▲ 17.3	▲ 3.3

[企業コメントより]

- ・売上の上昇があるが、費用の増加もあり、不足する従業員を補充するまでには至らず、厳しい状況にある。合理化等の努力にも限界を感じる【情報】
- ・(不可欠な)燃料なので対処しようがない【運送】
- ・タイヤ価格の高騰(の影響大)。点呼業務の合理化、省人化(を図る)【運送業】
- ・販路拡大、値上交渉、効率化(を図る)【陸送業】
- ・燃料価格の高騰(が厳しい)【運送業】

- ・コロナ禍以降平日の夜の営業が厳しくランチでなんとか耐えている状況が続いている【飲食業】
- ・大手製造メーカーが高卒を大量に採用するようになったため、中小企業には高卒さえ採用が困難な状況【広告代理店】
- ・仕入原価の高騰により、利益率が低くなり、とても苦しい【食品製造販売】
- ・食材の仕入れ原価が高騰したままです。売価を簡単には上げる事ができないので苦勞しています【飲食サービス】
- ・トランプ関税開始以降製造業の生産の落ち込みで仕事のパイがコロナ時期の方がまだ良かった感じです。特に自動車関連は、取引先として2次 3次(サプライヤー)が多い我々では生き延びられるか瀬戸際な感じとも言えます【資源回収】
- ・求人を出しても連絡がない【自動車整備】
- ・2割3割程度の食材の値上げならまだ我慢できるが、メインの食材の価格が、この20年の間に5倍以上になってしまった。今はこれさえ売れていれば儲かるというメニューがない…とはいえ、もうこれ以上の値上げをして顧客離れが進むのも怖い。今できることは、食材ロスを出さないような新メニューを考えたり、仕入れ業者とのコミュニケーションで価格交渉を頻繁にしたり、同業者とのコミュニケーションの中で新メニューのヒントなどを得たり…底辺的な努力ではあるが諦めないで頑張りたい【飲食店】
- ・原材料高はどこの業種にもあると思いますが、飲食業は(極論ですが)、その日の風によって大きく変わる場所が大変です(この数年良くない風が多い)【飲食業】
- ・最小賃金値上げに対する対応、価格転嫁の厳しさが今後大きな課題となる【不動産】
- ・不景気なイメージなのか所得には影響なくとも来店サイクルが伸びたり低料金店に流れているのが悩ましい【美容業】

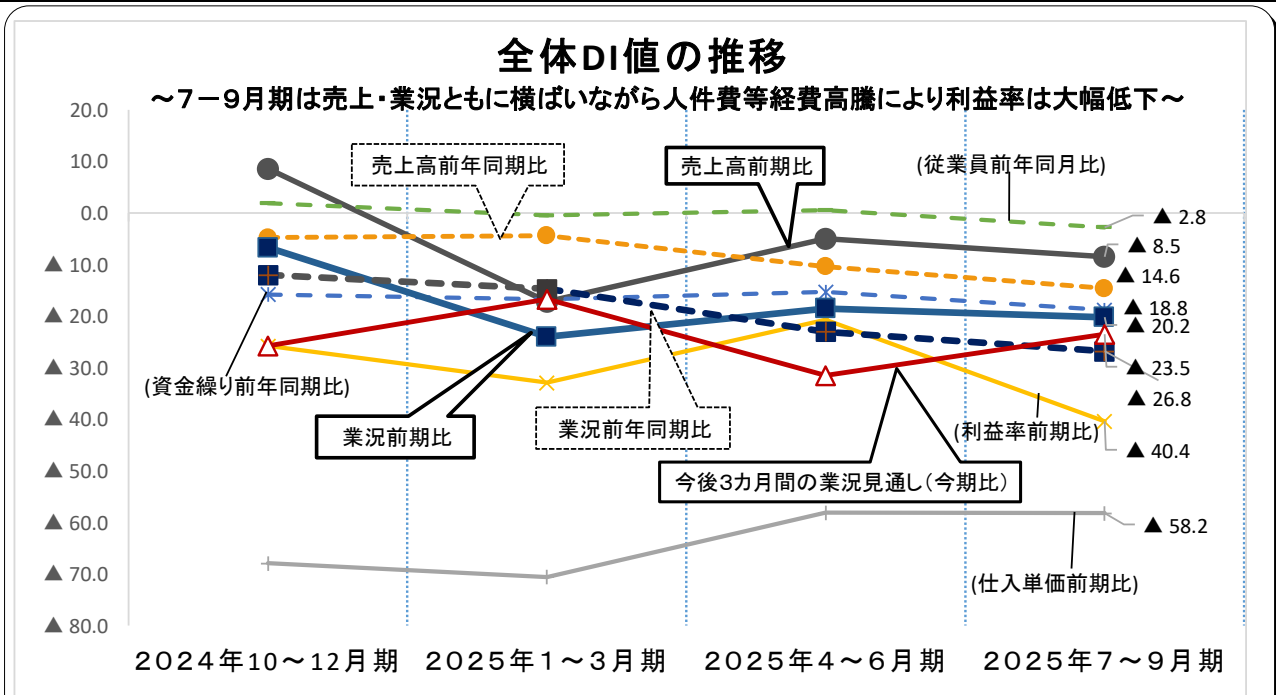
(3) 全体DI値について

全 体 D I 値	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 5.0	▲ 8.5	▲ 3.5
売上高前年同期比	▲ 10.4	▲ 14.6	▲ 4.2
仕入単価前期比	▲ 58.1	▲ 58.2	▲ 0.1
利益率前期比	▲ 20.7	▲ 40.4	▲ 19.7
資金繰り前年同期比	▲ 15.3	▲ 18.8	▲ 3.5
従業員前年同期比	0.5	▲ 2.8	▲ 3.3
業況前期比	▲ 18.5	▲ 20.2	▲ 1.7
業況前年同期比	▲ 23.0	▲ 26.8	▲ 3.8
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 31.5	▲ 23.5	8.0

<動向について>

- ・7~9月期は全業種ベースで売上DI・業況DIともに前期比でやや弱含みながら横ばいの推移にある。業種別には輸送機器が前期比・前年同期比ともに大幅低下した一方で、小売業は大幅に上昇した。
- ・仕入単価DIは全業種ベースでは前期比横ばいながら、利益率DIは19.7ポイント低下した。求人難や賃上げ圧力などが厳しく、諸経費高騰の影響が強く示唆される。
- ・今後3ヵ月間の業況見通しは、全業種ベースで前期比8.0ポイント上昇した。輸送機器とサービス業でやや低下したものの、他の業種は上昇している。但し水準自体は過去4期の変動範囲内に留まる。

全体DI値の推移	2024年10~12月期	2025年1~3月期	2025年4~6月期	2025年7~9月期
売上高前期比	8.6	▲ 17.2	▲ 5.0	▲ 8.5
売上高前年同期比	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 10.4	▲ 14.6
仕入単価前期比	▲ 67.9	▲ 70.6	▲ 58.1	▲ 58.2
利益率前期比	▲ 25.8	▲ 32.9	▲ 20.7	▲ 40.4
資金繰り前年同期比	▲ 15.8	▲ 16.7	▲ 15.3	▲ 18.8
従業員前年同期比	1.9	▲ 0.5	0.5	▲ 2.8
業況前期比	▲ 6.7	▲ 24.0	▲ 18.5	▲ 20.2
業況前年同期比	▲ 12.0	▲ 14.7	▲ 23.0	▲ 26.8
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 25.8	▲ 16.7	▲ 31.5	▲ 23.5

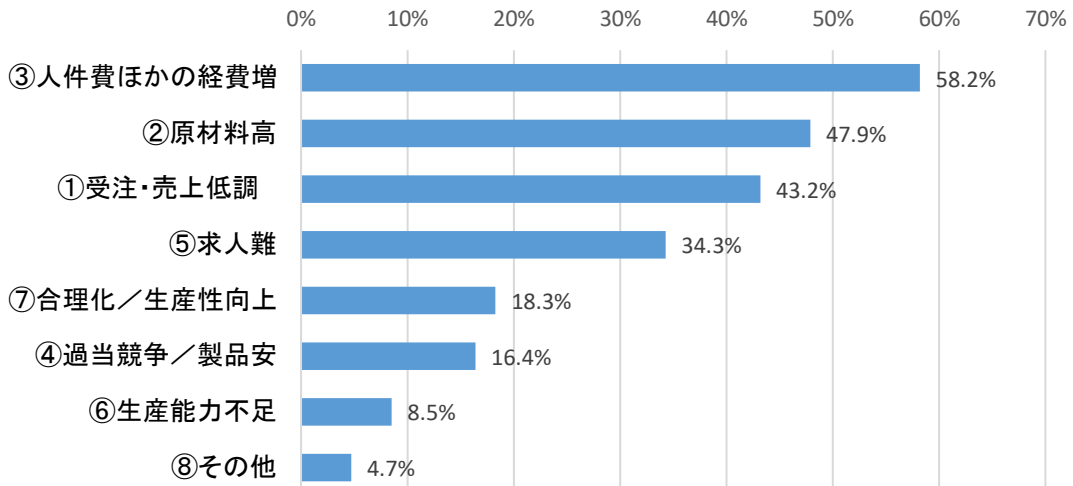


<グラフの見方>

※グラフの実線は前期(今期)比の系列、点線は前年同期比の系列、
 マーカーは売上高を●、業況を■、見通しを△とした。

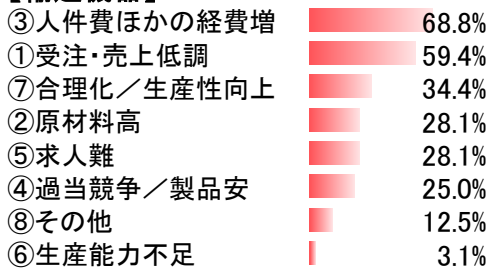
(4)【参考】現在直面している経営課題の指摘率～全業種

(各事業所3つまで選択、総数213件に対する割合)

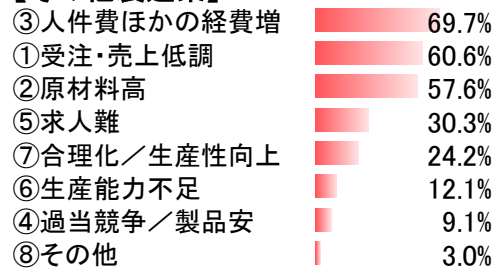


<業種別>

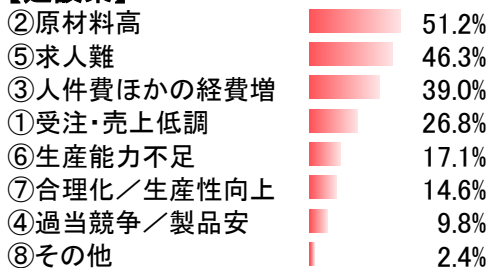
【輸送機器】



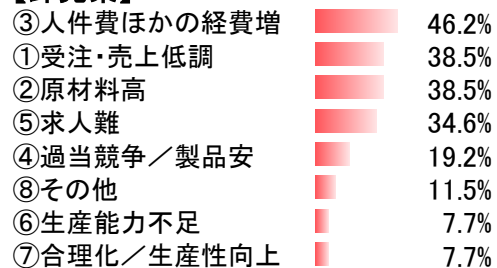
【その他製造業】



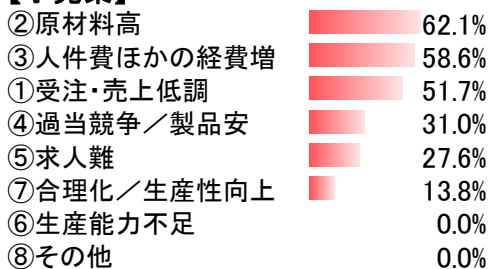
【建設業】



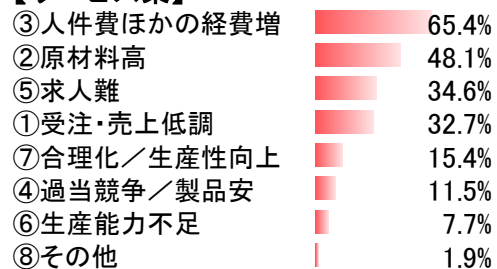
【卸売業】



【小売業】



【サービス業】



(5) 比較資料編

当所調査のDI値をもとに、同様の景況調査を行っている機関とのデータ比較を行った。

(なお、日本商工会議所のLOBO調査については毎月調査となっているため、1～3月の平均値でDI値を算出)

①売上高前期比DI (「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 15.4	▲ 9.2	-	-
建設業	▲ 2.4	▲ 10.4	-	-
卸売業	▲ 26.9	▲ 5.6	-	-
小売業	0.0	▲ 17.8	-	-
サービス業	0.0	▲ 1.3	-	-
全体	▲ 8.5	▲ 8.7	-	-

(売上高・前年同期比)

②売上高前年同期比DI (「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 30.8	-	▲ 7.4	1.4
建設業	▲ 9.8	-	▲ 6.3	
卸売業	▲ 34.6	-	▲ 13.0	0.2
小売業	3.5	-	▲ 12.7	
サービス業	1.9	-	3.4	
全体	▲ 14.6	-	▲ 6.2	0.4

(↑非製造業という括り)

③仕入単価前期比DI (「下降」と答えた割合－「増加」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 40.0	-	▲ 54.6	-
建設業	▲ 73.2	-	▲ 68.7	-
卸売業	▲ 61.5	-	▲ 57.4	-
小売業	▲ 69.0	-	▲ 67.0	-
サービス業	▲ 61.5	-	▲ 60.6	-
全体	▲ 58.2	-	▲ 61.4	-

(仕入単価・前年同期比)

④利益率前期比DI (「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 35.4	▲ 21.5	▲ 17.3	▲ 5.1
建設業	▲ 36.6	▲ 19.9	▲ 14.1	
卸売業	▲ 34.6	▲ 15.2	▲ 18.1	
小売業	▲ 55.2	▲ 28.8	▲ 24.8	▲ 9.6
サービス業	▲ 44.2	▲ 19.4	▲ 16.5	
全体	▲ 40.4	▲ 22.0	▲ 18.2	▲ 8.5

(採算・前年同期比) (採算・前年同期比)

⑤資金繰り前年同期比DI (「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(全規模)
製造業	▲ 24.6	▲ 15.3	▲ 16.9	7.0
建設業	▲ 7.3	▲ 6.4	▲ 6.5	
卸売業	▲ 7.7	▲ 9.4	▲ 9.7	
小売業	▲ 10.3	▲ 20.2	▲ 17.5	13.0
サービス業	▲ 30.8	▲ 9.9	▲ 12.0	
全体	▲ 18.8	▲ 13.2	▲ 13.2	10.0

(直近比)

⑥従業員前年同期比DI（「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 7.7	▲ 5.2	－	－
建設業	12.2	▲ 4.5	－	－
卸売業	3.9	▲ 1.2	－	－
小売業	▲ 17.2	▲ 4.3	－	－
サービス業	▲ 3.8	▲ 2.2	－	－
全体	▲ 2.8	▲ 3.8	－	－

⑦業況前期比DI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 18.5	▲ 19.6	－	1.0
建設業	▲ 7.3	▲ 9.4	－	18.0
卸売業	▲ 38.5	▲ 15.1	－	5.0
小売業	▲ 17.3	▲ 26.2	－	7.0
サービス業	▲ 25.0	▲ 11.1	－	14.0
全体	▲ 20.2	▲ 16.8	－	9.0

(業況・前年同期比)

(サービス業は宿泊・飲食の数字)

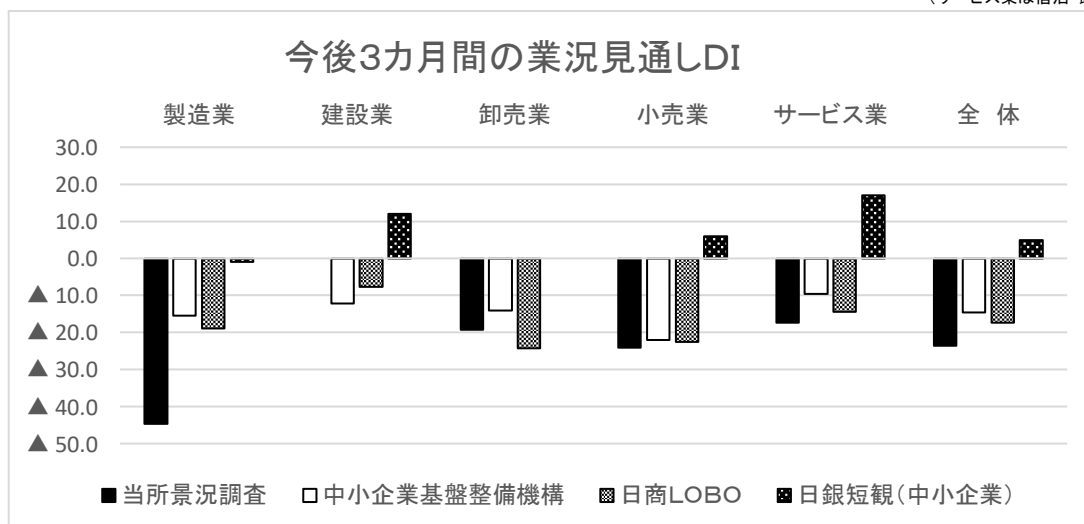
⑧業況前年同期比DI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 38.5	－	▲ 21.2	－
建設業	▲ 19.5	－	▲ 12.0	－
卸売業	▲ 30.8	－	▲ 23.4	－
小売業	▲ 17.2	－	▲ 25.9	－
サービス業	▲ 21.2	－	▲ 13.2	－
全体	▲ 26.8	－	▲ 18.8	－

⑨今後3ヶ月間の業況見通しDI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 44.6	▲ 15.4	▲ 18.9	▲ 1.0
建設業	0.0	▲ 12.2	▲ 7.7	12.0
卸売業	▲ 19.2	▲ 14.0	▲ 24.3	0.0
小売業	▲ 24.1	▲ 22.1	▲ 22.6	6.0
サービス業	▲ 17.3	▲ 9.6	▲ 14.4	17.0
全体	▲ 23.5	▲ 14.6	▲ 17.3	5.0

(サービス業は宿泊・飲食の数字)



太田商工会議所管内景況調査報告書

～調査・分析・発行～

太田商工会議所

〒 373-8521

群馬県太田市浜町3-6

TEL 0276 (45) 2121

FAX 0276 (45) 1088

URL <http://www.otacci.or.jp>

Mail info@staff.otacci.or.jp

2025年（令和7年）10月31日 発行